

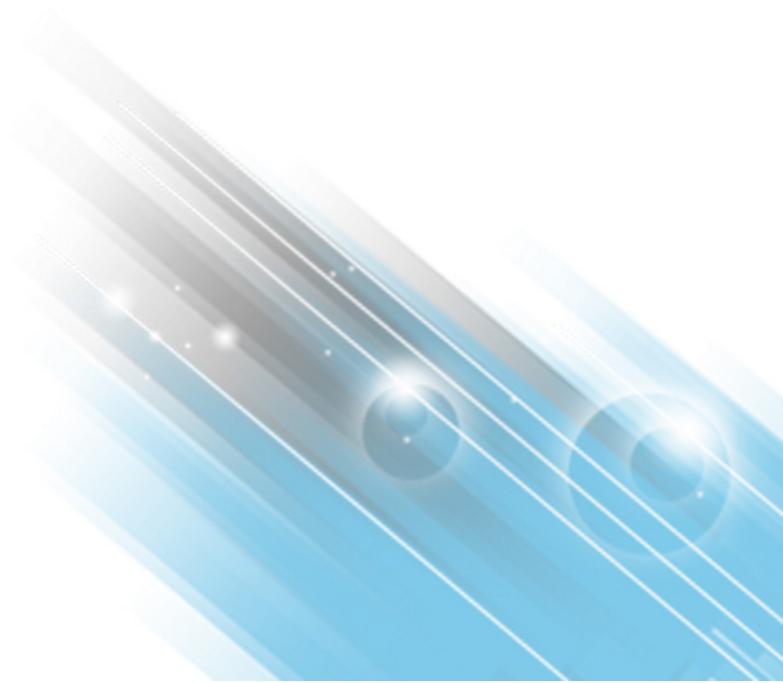


HP Virtualization Performance Viewer

ソフトウェアバージョン :2.20
Linuxオペレーティングシステム

Linuxでのスタートアップガイド

ドキュメントリリース日: 2015年6月
ソフトウェアリリース日: 2015年6月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2014-2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® はAdobe Systems Incorporatedの商標です。

Microsoft® およびWindows® は、米国におけるマイクロソフト企業グループの登録商標です。

Javaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

謝辞

本製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) (英語サイト) により開発されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>) (英語サイト) で使用する、OpenSSL Projectにより開発されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、Eric Young (eay@cryptsoft.com) が作成した暗号化ソフトウェアが含まれています。

本製品には、Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com) が作成したソフトウェアが含まれています。

本製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) (英語サイト) により開発されたソフトウェアが含まれています。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行うことができます。<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passportのログインページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細については、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<http://support.openview.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のある技術情報の検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、以下のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このWebサイトのURLは、<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

目次

第1章: はじめに	5
第2章: HP vPVのインストール	6
前提条件	6
HP vPVの以前のバージョンからのHP vPV 2.20へのアップグレード	7
インストーラーを使用したHP vPVのアップグレード	7
アップグレードの検証	8
LinuxノードでのHP vPVのインストール	8
在席操作によるインストール	11
非在席操作によるインストール	13
インストールの確認	13
第3章: HP vPVインターフェイスへのアクセス	15
データソースの追加	16
第4章: ライセンス管理	17
ユーザーインターフェイス	17
ライセンスのタイプ	18
ライセンスのインポート	22
第5章: トラブルシューティング	24
第6章: HP vPVコミュニティ	29
ドキュメントに関するフィードバックの送信	30

第1章: はじめに

HP Virtualization Performance Viewer (HP vPV) は、仮想化環境の要素のパフォーマンス傾向を分析するWebベースの分析視覚化ツールです。このツールは、環境の概要、ほぼリアルタイムのデータ分析、履歴データ分析を提供し、インタラクティブなダッシュボードの使用による優先順位付けを行うことで、仮想化環境の監視を可能にします。また、クラウドおよびハイパーバイザー環境での監視も可能にします。HP vPVによって、要素のパフォーマンスデータが相互のコンテキストにおいて可視化され、迅速にボトルネックを分析できるようになります。HP vPVはパフォーマンス監視、グラフ生成、レポート機能を単一のインターフェイスで提供します。HP vPVを使用すると、次の操作が可能です。

パフォーマンス監視

- **ダッシュボード**は、他のHP vPVビューに迅速かつ容易に移動する手段を提供します。
- **ツリーマップ**は、環境のヘルスに関するグラフを表示します。問題をわかりやすく特定および表示することができます。ツリーマップでは、データセンター、ホスト、またはVMなどのエンティティを迅速に分析します。
- **ワークベンチ**は、監視されているリソースのパフォーマンスを視覚化し、順位決定します。過去の特定の期間にわたり発生した問題のトラブルシューティングを実行できます。使用可能なメトリックを活用して、グラフを作成および表示できます。さらに、頻繁に使用するグラフをお気に入りとして保存できます。
- **アラート**は、仮想化環境で生成された問題を特定してトラブルシューティングを実行するのに役立ちます。
- **リアルタイムゲストドリルダウン**は、環境内のオーバーロードを検出します。ドリルダウンしてVMでのパフォーマンスのオーバーロード問題を判別できます。

容量の分析と最適化

- **容量の概要**は、環境内のリソースの適切な推奨サイズを提示します。
- **配置**は、使用可能および再利用可能な容量に基づく新しいVMの追加に関するヒントを提供します。
- **予測**は、さまざまなリソースの事前定義された期間にわたる将来の容量使用率レベルを予想します。予測機能を使用すると、最大容量までの日数の情報を判断して、最適な割り当てと配置を行うことができます。
- **モデラー**は、環境にリソースを追加または環境からリソースを削除することの影響を判断するのに役立ちます。将来の容量使用率を見積もり、ハードウェア要件を事前に計画することが可能です。

第2章: HP vPVのインストール

Linuxベースのインストーラーを使用してHP vPVをインストールすることもできます。詳細については、「[LinuxノードでのHP vPVのインストール](#)」(8ページ)を参照してください。

前提条件

HP vPVでは、ファイアウォールで次のポートが開いている必要があります。

ポート	プロトコル	説明
8081	HTTP	HP vPVがインストールされているシステムにファイアウォールが存在する場合に、HP vPVにリモートブラウザからアクセスできるようにするためのポート。
8444	HTTPS	HP vPVにHypertext Transfer Protocol Secure (HTTPS) モードでアクセスするためのポート。
5480、5488、5489	HTTPS	VAMI (Virtual Appliance Management Interface) にアクセスするためのポート。
383	HTTPS	HP vPVの内部通信プロセスのためのポート。
5433	HTTPS	HP vPVのデータベース要件 (HP Vertica) のためのポート。
443	HTTPS	VMware vSphereターゲットからのデータ収集のためのポート。
5671	HTTPS	HP OneViewターゲットからのデータ収集のためのポート。
135	TCP	Hyper-Vターゲットからのデータ収集のためのポート。Windows プロキシシステムとHyper-Vホスト間のポートは、Hyper-Vホスト上で開かれている必要があります。
8100	HTTPS	SCVMMターゲットからのデータ収集のためのポート。Windows プロキシシステムとSCVMMホスト間のポートは、SCVMMホスト上で開かれている必要があります。
22	SSH	KVMおよびXenターゲットからのデータ収集のための

ポート	プロトコル	説明
		ポート。
35357 (管理)、8774 (Nova)	HTTPS	OpenStackターゲットからのデータ収集のためのポート。

HP vPVの以前のバージョンからのHP vPV 2.20へのアップグレード

HP vPVはバージョン2.01および2.10からのみ2.20にアップグレードできます。次の表に、サポートされるアップグレードシナリオを示します。

アップグレードシナリオ	手順
HP vPVをバージョン2.10からバージョン2.20にアップグレードする	次の方法でHP vPV 2.20にアップグレードできます。 <ul style="list-style-type: none">インストーラーを使用したHP vPVのアップグレード
HP vPVをバージョン2.01からバージョン2.20にアップグレードする	次の方法でHP vPV 2.20にアップグレードできます。 <ul style="list-style-type: none">インストーラーを使用したHP vPVのアップグレード

注:HP vPVは、バージョン2.01および2.10からのみ2.20にアップグレードできます。HP vPVのアップグレードにはかなりの時間がかかります。HP vPVをバージョン1.00、1.10、1.20、または2.00からバージョン2.20に直接アップグレードすることはできません。また、ロールバックをサポートしていないため、2.20にアップグレードする前にHP vPV 2.01または2.10マシンのスナップショットを取得していることを確認してください。

インストーラーを使用したHP vPVのアップグレード

すでにHP vPVの以前のバージョンがご使用の環境にインストールされている場合にバージョン2.20にアップグレードする場合は、**.tar**ファイルを使用します。**.tar**ファイルをローカルマシン上にダウンロードして、HP vPVをVMにインストールします。

HP vPVをVMにインストールするには、「[LinuxノードでのHP vPVのインストール](#)」(8ページ)を参照してください。

注:アップグレード後にシステムを再起動することをお勧めします。再起動後に、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行してHP vPVサーバーを開始する必要があります。

```
pv start
```

アップグレードの検証

次のいずれかを実行して、HP vPVバージョン2.20へのアップグレードを検証できます。

- HP vPVインターフェイスで、[ヘルプ]アイコンに移動して、[HP vPVについて]をクリックします。バージョン情報が記載されたダイアログボックスが表示されます。
- コマンドプロンプトで次のコマンドを実行してバージョンを確認します。

```
pv version
```

注: アップグレード後、次のコマンドを使用してHP vPVプロセスのステータスを確認することを推奨します。

```
/opt/OV/bin/ovc
```

実行していないプロセスがある場合、次のコマンドを使用してそのプロセスを再起動します。

```
pv restart
```

LinuxノードでのHP vPVのインストール

Linuxベースのインストーラーの前提条件

HP vPVのインストーラーバージョンの前提条件は次のとおりです。

- HP vPVサーバーにLibvirtとそのすべての依存関係をインストールします。

Libvirtは、Linux、KVM、Xenなどの仮想プラットフォームを管理するためのオープンソースの管理ツールです。

Libvirtは、次のLinux配布のバージョンにインストール可能です。

Linuxのタイプ	OSのバージョン
CentOS	6.4 (64ビット)
	6.5 (64ビット)
RHEL	6.4 (64ビット)

Linuxのタイプ	OSのバージョン
	6.5 (64ビット)
Oracle Enterprise Linux	6.5 (64ビット) (Red Hat互換カーネル) HP vPVはUnbreakable Kernel (uel/uekサフィックス付きカーネル) をサポートしません。

- HP vPVサーバーにExpectとそのすべての依存関係をインストールします。
Expectは、sshなどのインタラクティブなプログラムと通信するツールです。
- HP vPVスタンドアロンインストールの場合、最新のunixODBCパッケージをインストールします(まだ使用可能でない場合)。
unixODBC Driver Managerは、データソースにアクセスするための予測可能なAPIをアプリケーション開発者に提供するオープンソースのODBCドライバマネージャーです。
- RHELに割り当てられたホスト名が完全修飾ドメイン名 (FQDN) で、DNSによって解決可能であることを確認します。DNSが環境において設定されていない場合、/etc/hostsファイルでIPアドレスのマシン名マッピングを追加します。
- HP vPVをインストールするには、次のランタイムライブラリおよびパッケージが必要です。
 - x64システム:
 - glibc-2.3.4-2.36.i686.rpm
 - libgcc-3.4.6-8.i386.rpm
 - libstdc++-3.4.6-8.i386
 - libtool-ltdl-2.2.6-15.5.el6.x86_64.rpm
 - unixODBC-2.2.14-12.el6_3.x86_64.rpm
 - ntpdate-4.2.6p5-1.el6.x86_64.rpm
 - libedit-2.11-4.20080712cvs.1.el6.x86_64.rpm
 - ntp-4.2.6p5-1.el6.x86_64.rpm
 - gdb-7.2-60.el6_4.1.x86_64.rpm (pstackをインストールする場合)
 - mcelog-1.0pre3_20120814_2-0.13.el6.x86_64.rpm
 - sysstat-9.0.4-22.el6.x86_64.rpm
 - パッケージを確認するには、次のコマンドを使用します。
rpm -qa | grep -i <パッケージ名>
ここで、<パッケージ名>は確認するパッケージの名前です。
 - C++ランタイム:
 - カーネルバージョン2.6を備えたシステムの場合:
/usr/lib/libstdc++.so.5

- Itanium上にカーネルバージョン2.6を備えたシステムの場合:

`/usr/lib/libstdc++.so.6`

- Curses ライブライブラリ:

`/usr/lib/libncurses.so.5`

- unixODBC ライブライブラリ:

`/usr/lib64/libodbc.so`

- m4 コーティリティアがパス `/usr/bin/m4` にインストールされていることを確認します。

- 環境で、次のパスのいずれか適切なパスに `libvirt` ライブラリの実行可能 (x) ビットを設定します。

- **`/usr/lib64/libvirt.so`**

- **`/usr/lib64/libvirt.so.0`**

- **`/usr/lib/libvirt.so`**

- **`/usr/lib/libvirt.so.0`**

- タイムゾーンを設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# env | grep TZ
```

```
TZ=EST5EDT
```

HP Verticaの前提条件 :

- HP Vertica は、データベースファイルが保存されているドライブ上では、論理ボリュームマネージャー (LVM) をサポートしません。HP vPV インストーラーは、`/var/opt/OV` パーティションが LVM の場合、終了します。
- Linux のファイルシステムタイプは `ext3` または `ext4` のいずれかである必要があります。その他のすべてのファイルシステムタイプはサポートされません。
- SELinux が `permissive` モードで実行されている場合を除き、HP Vertica では SELinux はサポートされません。
- `/var/opt/OV` パーティションは最低でも 50 GB のディスク容量を持つ必要があります。
- システムにインストールされている RAM の量に関係なく、少なくとも 2GB 以上のスワップパーティションが必要です。
- 論理プロセッサあたり最小で 1GB の RAM。

HP Vertica の前提条件の詳細については、『HP Vertica Analytic Database Installation Guide』を参照してください。

次のいずれかの手順を使用して HP vPV をインストールできます。

- [「在席操作によるインストール」](#)
- [「非在席操作によるインストール」](#)

注: システムにHP vPVをインストールするには、rootユーザーとしてログオンする必要があります。

在席操作によるインストール

グラフィックインターフェイスおよびコマンド行インターフェイスを介してHP vPVをインストールするには、次の手順を実行します。

グラフィックインターフェイスを介してのHP vPVのインストール

X11インターフェイスを使用してHP vPVをインストールするには、次のタスクを実行します。

1. まず、rootユーザーとしてログオンします。
2. **.tar**ファイルをダウンロードします。**.tar**ファイルのコンテンツを展開します。
3. X11ターミナルウィンドウを使用してインストールを開始する場合は、次のコマンドを入力することで、DISPLAY変数をエクスポートしてX11ターミナルをポイントします。

```
export DISPLAY=<IP_Address/system_name>:0.0
```

ここで、<IP_Address/system_name>はX11ターミナルのIPアドレスまたはシステム名です。

4. 次を入力します。

```
<tarファイルが展開されるディレクトリ>/ HPPV_2.20.xxx_setup.bin
```

HP vPVインストールウィザードが表示されます。このウィンドウに、紹介メッセージが表示されます。

注: Linuxシステムに初めてHP vPVをインストールする場合は、インストールパラメーターを含むovinstallparams.iniファイルがシステムのtemporaryディレクトリに作成されます。インストール時、HPインストーラーによってovinstallparams.iniファイルの確認が実行されます。HPインストーラーがシステムでovinstallparams.iniファイルを検出すると、このファイルの値を再利用するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

- 構成ファイルの値をデフォルト値として使用する場合は、**[はい]**をクリックします。
- 既存の構成ファイルを上書きする場合は**[いいえ]**をクリックします。

HPインストーラーがファイルを検出しない場合、システムによってデフォルト値を含むovinstallparams.iniファイルがtemporaryディレクトリに作成されます。ovinstallparams.iniデータを保存するには、その他のHP製品をインストールする前にファイルを別の場所にコピーします。

5. HP vPVインストールウィザードで**[次へ]**をクリックします。ライセンス契約の画面が表示されます。
6. ライセンス契約の条件を確認します。インストールを続行するには、**[ライセンス使用許諾に同意します]**オプションを選択します。インストールウィザードによってインストールチェックが実行されます。

7. [次へ]をクリックします。インストール前の概要の画面が表示されます。この画面には、インストールされるコンポーネントの一覧が表示されます。

注:HP vPVバージョン2.00または2.01がシステムに存在している場合、すでにインストール済みのコンポーネントパッケージを強制的に再インストールするよう求められることがあります。

8. [インストール]をクリックします。

注: インストールが失敗した場合は、ロールバックするか、インストールを中止できます。[ロールバック]オプションでは、すでにインストールされているコンポーネントを削除します。

[終了]をクリックすると、インストールが終了しますが、その時点ですでにインストールされているコンポーネントはアンインストールされません。

次回HP vPVのインストールを開始するときに、インストーラーによってHP vPVのインストールを再開するか、アンインストールするかを確認するプロンプトが表示されます。

9. [詳細]タブをクリックし、コンポーネントツリーを展開して、コンポーネントの一覧を表示します。
10. システムのログファイルを表示するには、[ログファイルの表示]をクリックします。
11. [完了]をクリックして、インストールを終了します。

注: システムを再起動する必要がある場合は、インストールの完了後に「システムの構成の変更を有効にするには、システムを再起動する必要があります。インストールを終了しますか?」というメッセージが表示されます。

インストール後にシステムを再起動することをお勧めします。

コマンド行インターフェイスを介してのHP vPVのインストール

注: コンソールモードでHP vPVをインストールする際はローカリゼーションはサポートされません。この結果、一部のテキストは判読できない場合があります。

コマンド行インターフェイスを介してHP vPVをインストールするには、次の手順を実行します。

1. まず、root ユーザーとしてログオンします。
2. .tar ファイルをダウンロードします。 .tar ファイルのコンテンツを展開します。
3. 次のコマンドを実行します。

スタンドアロンシステムにHP vPVをインストールする場合

```
<tarファイルが展開されるディレクトリ>/HPPV_2.20.xxx_setup.bin -i console
```

次の言語のいずれかをシステムのロケールとして設定している場合:英語、日本語、簡易中国語を設定している場合、インストールの開始時にインストーラーによってその言語を選択するように求められます。システムのロケールに設定されている言語を選択するためのオプションが

用意されています。システムのロケールがこれら以外の言語に設定されている場合、インストーラーは「英語」のみを表示します。

4. ライセンス情報の「**ライセンス使用許諾に同意します**」というプロンプトが表示されたら、「**Y**」を入力して契約条項に同意し、インストールを続行します。インストーラーによってすべてのインストール要件がチェックされます。
5. **Enter**をクリックして続行します。インストール前の概要が表示されます。

注:HP vPVバージョン2.00または2.01がシステムに存在している場合、すでにインストール済みのコンポーネントパッケージを強制的に再インストールするよう求められることがあります。続行するには[はい]を選択します。

6. **Enter**をクリックして続行します。
インストールが完了すると、インストールが正常に完了したことを示すメッセージが表示されます。

非在席操作によるインストール

非在席操作によるインストールを実行するには、次の手順を実行します。

1. rootユーザーとしてログインします。
2. **.tar**ファイルをダウンロードします。**.tar**ファイルのコンテンツを展開します。
3. **.tar**ファイルが展開されているディレクトリに移動します。
4. コマンドプロンプトで、次の構文を入力します。

```
./HPPV_2.20.xxx_setup.bin -i silent
```

注: インストーラーによって正常に動作するHP vPVのインストールが検出されると、HP vPVがアンインストールされます(-i silent コマンドの実行時)。検出されない場合は、HP vPVがインストールされます。

5. インストールを検証するには、ログファイルを確認します。

/tmp/HPOVInstaller/HPPVInstallLog.txtにあるHP vPVインストーラーログファイルを表示できます。

インストールの確認

正常なインストールの場合

- Linuxシステムでは、アプリケーションディレクトリおよびデータディレクトリのパスが表示されます。
- 次のインストールログファイルを表示できます。

Linuxの場合:/tmp/HPPV_2.xx.xxx_HPPVInstaller.txt /var/tmp/HPOVInstaller/PerfUtil-mm-dd-yyyy.log.0

この場合、mmは月、ddは日、yyyyは年を示します。ファイル名は、インストールが実行された時間を示します。

第3章: HP vPV インターフェイスへのアクセス

HP vPVのインストールに成功したら、次のいずれかのURLを使用してHP vPVインターフェイスにアクセスします。

https://<システム名>:<ポート番号>/PV

この例では、

<システム名>はHP vPVサーバーのIPアドレスまたはホスト名です。

<ポート番号>はHP vPVが設定されているポート番号です。デフォルトのポート番号は8444です。

PVは大文字と小文字が区別されます。

注: HTTPプロトコル (**http://<システム名>:<ポート番号>/PV**) を使用してHP vPVにアクセスする場合、自動的にセキュリティ保護されたHP vPV URL (**https://<システム名>:<ポート番号>/PV**) にリダイレクトされます。

HP vPVインターフェイスは次のように表示されます。



データソースの追加

HP vPVのデータソースを追加する場合、[設定] > [収集と分析] に移動します。HP vPVで監視する必要のあるデータソースの詳細を指定します。



HP vPVでは、次のデータソースをサポートします。

- VMware vCenter
- OneView
- Microsoft SCVMM
- Hyper-V
- KVM
- Xen
- 物理サーバー
- OpenStack
- AWS

データソースの追加の詳細については、[設定] ページから [収集と分析] を開いて  [ヘルプ] をクリックするか「Virtualization Performance Viewerオンラインヘルプ」を参照してください。これにより、[収集と分析] のコンテキスト依存ヘルプが開きます。

第4章: ライセンス管理

HP vPVのインストール後、ビジネス上の要件に基づく適切なライセンスの購入が可能です。これらのライセンスによって、製品のすべての機能にアクセスできるようになります。各ライセンスを購入するには、**[評価版/コミュニティライセンスを使用しています。ライセンスを購入するにはクリックしてください。]**をクリックします。このリンクから**[ライセンスの購入]**ページに移動できます。**[ご連絡ください]**タブに詳細を入力して、**[送信]**をクリックします。電子メールクライアントがブラウザで設定されていることを確認します。

HP vPVユーザーインターフェイスで**[ライセンス]**オプションにアクセスするには、次の手順を実行します。

1. HP vPVのユーザーインターフェイスにログオンします。
2. **[設定]**アイコンをクリックします。
[設定] ページが表示されます。
3. [設定] ページで、**[ライセンス]**オプションをクリックします。
[ライセンス] ページが表示されます。

[ライセンス] ページには、HP vPVのライセンスに関する情報が表示されます。また、このタブを使用して、評価ライセンスの使用を開始したり、HP vPVのライセンスをインポートしたりできます。ライセンスのインポートの詳細については、**「ライセンスのインポート」**を参照してください。

注: コミュニティライセンスを使用するHP vPVサーバーにエクスプレスライセンスをインストールすると、エクスプレスライセンスがコミュニティライセンスをオーバーライドします。

コミュニティライセンスを保持する場合は、別個のHP vPVサーバーを作成してコミュニティライセンスをインストールします。

ライセンス間の違いおよび利用可能な機能の詳細については、**「ライセンスのタイプ」**を参照してください。

ユーザーインターフェイス

次の表に、[ライセンス]オプションの各セクションを示します。

セクション	説明
ライセンスステータス	[ライセンスステータス]セクションには、HP vPVの現在のライセンスに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• アクティブなライセンスによって提供されるOSインスタンスの最大数• アクティブなライセンスによって現在監視されているOSインスタンスの数

セクション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> データ保有期間 サーバーインスタンスライセンスを有効にしている場合、合計のサーバーインスタンス容量、現在のサーバーインスタンス容量、サーバーライセンスで対応されるOSインスタンスを表示できます。 ライセンスアラートのしきい値
インストール済みライセンス一覧	<p>[インストール済みライセンス一覧] セクションには、HP vPVのアクティブなライセンスおよびインストールされているすべてのライセンスに関する次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> インストールされているライセンスのタイプ ライセンスが期限切れになる日付

注: OSインスタンスの数は、VMとホストの数のみを示します。

ライセンスのタイプ

HP vPVは、コミュニティ、エクスプレス、プレミアム、評価版、監視専用、およびサーバーインスタンスライセンスを提供します。

注: コミュニティライセンスで監視できるOSインスタンスの最大数は25です。OSインスタンスの数は、VMとホストの数のみを示します。HP vPVでは、エクスプレス、プレミアム、評価版ライセンスを使用して最大6000のOSインスタンスを監視することを推奨します。ただし、より大規模な構成をサポート可能です。詳細については、『HP vPV Sizing Guide』を参照してください。監視専用ライセンスでサポートされるOSインスタンス数に制限はありません。

次の表に、HP vPVの各ライセンスで利用可能な機能を示します。

機能	コミュニティライセンス	エクスプレスライセンス	プレミアムライセンス	評価ライセンス	ライセンスの監視	サーバーライセンス
データ保有期間	最大24時間	90日間	90日間	60日間	8日間	90日間
ライセンス付与期間	永久	永久/期限付き	永久/期限付き	60日間	永久	永久
Enterprise Directoryの統合	なし	あり	あり	あり	なし	あり

機能	コミュニティライセンス	エクスプレスライセンス	プレミアムライセンス	評価ライセンス	ライセンスの監視	サーバーライセンス
レポート	あり	あり	あり	あり	なし	あり
HP OM、HP OMi、HP PM、およびHP BSMの統合	なし	あり	あり	あり	あり	あり
監視	なし	あり	あり	あり	あり	あり
HP CSAの統合	なし	なし	あり	あり	なし	あり
ビジネスグループ化	なし	なし	あり	あり	なし	あり
HP OneViewの統合	なし	なし	あり	あり	なし	あり
物理サーバーの監視	なし	なし	あり	あり	なし	あり
高度なトラブルシューティング用のゲストOSドリルダウン	なし	なし	あり	あり	なし	あり
現在の容量レポート (VMware™ vSphere、Microsoft™ HyperVおよびKVMのみ)	なし	なし	あり	あり	なし	あり
容量の最適化 (VMware™ vSphere、Microsoft™ HyperVおよびKVMのみ)	なし	なし	あり	あり	なし	あり
仮想マシンの配置 (VMware™ vSphere、Microsoft™ HyperVおよびKVMのみ)	なし	なし	あり	あり	なし	あり

機能	コミュニティライセンス	エクスプレスライセンス	プレミアムライセンス	評価ライセンス	ライセンスの監視	サーバーライセンス
容量の需要予測 (VMware™ vSphere、Microsoft™ HyperVおよびKVMのみ)	なし	なし	あり	あり	なし	あり
アラート (VMware™ vSphere、Microsoft™ HyperVおよびKVMのみ)	なし	あり	あり	あり	なし	あり
容量モデラー (VMware™ vSphere およびKVMのみ)	なし	なし	あり	あり	なし	あり
ダッシュボード	なし	なし	あり	あり	なし	あり

注: OSインスタンスの数は、VMとホストの数のみを示します。

評価ライセンスでは、製品のすべての機能を利用できます。評価ライセンスとプレミアムライセンスは、有効期間のみが異なります。

評価ライセンス

HP vPVをインストールした後のアクティブなライセンスは、デフォルトでコミュニティライセンスになります。評価モードのHP vPVの使用を開始するには、[評価の開始]をクリックします。ページが更新されて、評価ライセンスに関する情報が表示されます。

評価ライセンスが(60日経過後に)期限切れになると、ライセンスは自動的にコミュニティライセンスに変更されます。

評価版ライセンスをユーザーインターフェイスおよびコマンド行から有効にすることができます。

ユーザーインターフェイスの使用

評価版ライセンスをユーザーインターフェイスから有効にするには、次の手順を実行します。

1. [設定] ページの [ライセンス] オプションに移動します。
2. [評価版ライセンス] リンクをクリックします。

コマンド行の使用

評価版ライセンスをコマンド行から有効にするには、次の手順を実行します。

1. HP vPVマシンで、rootユーザーとしてログオンします。
2. 次のコマンドを実行して、評価版ライセンスをアクティブ化します。

```
pv starteval
```

注:データ収集は、すべてのデータソースからのインスタンスの合計が、ライセンスのインスタンス容量の上限以下である場合にのみ稼働します。合計インスタンス数がライセンスのインスタンス容量の上限を超える場合、すべてのデータソースに対するデータ収集が停止します。たとえば、100インスタンスのプレミアムライセンスがインストールされている場合に、2つのホストそれぞれに60インスタンスを接続しようとする、両方のホストの収集が失敗します。

監視専用ライセンス

HP vPVがHP Operations Manager/HP Operations Manager i (HPOM/OMi) と統合されているときに、HP vPVの監視機能のみを使用する場合は、監視専用ライセンスを有効化できます。監視専用ライセンスでは、HP vPVの [設定] オプションの限定された機能のみを使用できます。その他のHP vPV機能はすべて無効になります。

監視ライセンスは、ユーザーインターフェイスおよびコマンド行から有効化できます。

ユーザーインターフェイスの使用

ユーザーインターフェイスから監視ライセンスを有効化するには、次の手順を実行します。

1. [設定] ページの [ライセンス] オプションに移動します。
2. [監視専用ライセンスの開始] リンクをクリックします。

コマンド行の使用

コマンド行から監視ライセンスを有効化するには、次の手順を実行します。

1. HP vPVマシンにルートユーザーとしてログオンします。
2. 次のコマンドを実行して、監視専用ライセンスをアクティベートします。

```
pv startmonitoringonly
```

評価、プレミアム、エクスプレスライセンスは、既存の監視ライセンスをオーバーライドします。それぞれのライセンス資格期間の終了後、HP vPVでは監視ライセンス機能が復帰します。

同様に、HP vPVを評価モードで使用している場合に、監視ライセンスを有効化すると、すべての機能は評価期間の間のみ使用できます。評価ライセンスの有効期限が過ぎると、監視ライセンスがアクティブのままになります。

サーバーライセンス

HP vPVサーバーライセンスを有効にしてHP OneViewで管理されるサーバーを監視できます。単一のサーバーライセンスインスタンスで、サーバーライセンスで対応されるサーバー上で実行しているすべてのOSインスタンスを監視することが可能です。サーバーライセンスは利用可能な機能に関してプレミアムライセンスとほぼ同じです。

注:有効なサーバーインスタンスライセンスの最大数は、HP OneViewで管理される最大サーバー数以下になります。

次の表に、各ライセンスのシナリオでのHP vPVの動作を要約します。

現在アクティブなライセンス	適用されたライセンス	動作
コミュニティ/評価版/エクスプレス	サーバーライセンス	サーバーライセンスは既存のライセンスをオーバーライドします。ライセンスされた合計のインスタンス数はサーバーライセンスで対応されたOSインスタンスと等しくなります。 注: サーバーライセンスで対応されないサーバー上で実行しているOSインスタンスがある場合、データ収集は停止します。データ収集を開始するために、十分な容量を備えた追加のライセンスをインストールできます。
プレミアム	サーバーライセンス	サーバーライセンスはプレミアムライセンスと共存できません。ライセンスされた合計のインスタンス数はプレミアムライセンスおよびサーバーライセンスで対応されたOSインスタンスと等しくなります。 注: サーバーライセンスで対応されたサーバー上で実行しているOSインスタンスは、現在のOSインスタンス数から引かれます。この結果、追加のOSインスタンス容量を得られません。
サーバーライセンス	プレミアム	サーバーライセンスはプレミアムライセンスと共存できません。ライセンスされた合計のインスタンス数はプレミアムライセンスおよびサーバーライセンスで対応されたOSインスタンスと等しくなります。
サーバーライセンス	コミュニティ/評価版/エクスプレス	サポートされません。

注:HP OneViewで管理されるサーバーの数はサーバーライセンス容量を超える場合、サーバーは関連付けられているインスタンスの数に基づいて選択されます。インスタンスの最大数を持つサーバーが、サーバーライセンスによる監視対象として自動的に選択されます。

ライセンスのインポート

ライセンスを購入したら、HP vPVを使用して開始する前にインポートする必要があります。

HP vPVのライセンスをインポートするには、次の手順を実行します。

1. **[設定]** ページの **[ライセンス]** オプションに移動します。
2. **[ライセンス ステータス]** セクションで、**[ライセンスのインポート]** リンクをクリックします。
[ライセンスの管理] ページが表示されます。
3. **[ライセンスの管理]** セクションの **[ライセンスキー]** フィールドにライセンスキーを入力します。
4. **[ライセンスのインポート]** をクリックします。**[インストール済みライセンス一覧]** セクションが更新され、インポートされたライセンスの詳細が表示されます。
入力したライセンスキーをクリアするには、**[リセット]** をクリックします。

第5章: トラブルシューティング

本項では、HP vPVをトラブルシューティングする方法について説明します。

ログファイルサイズの増加のため、Verticaデータベースの空き容量がほとんどなくなる。

現象	ログファイルサイズの増加のため、Verticaデータベースの空き容量がほとんどなくなってしまいます。
原因	Verticaデータベースは、ログデータを日次で.gzファイルに統合、保管します。デフォルトでは、(「ローテーション」という)この処理は52週にわたり続きます。
解決策	<p>Verticaデータベースの容量を増やすには、次の2つのソリューションのいずれかを実施します。</p> <p>ソリューション1</p> <ol style="list-style-type: none">1. /opt/vertica/config/logrotate/に移動します。2. pvファイルを開きます。3. pvファイルの# and keep for 52 weeksで、rotateの値を52からローテーションされたログファイルを保存する週数に変更します。 <p>例:rotate 3</p> <p>この場合、Verticaデータベースは3週にわたり.gzファイルを保管します。</p> <ol style="list-style-type: none">4. すべての# and keep for 52 weeksインスタンスに対して、手順3を繰り返します。5. ファイルを保存して閉じます。 <p>ソリューション2</p> <ol style="list-style-type: none">1. rootユーザーとしてログインします。2. HP vPVサーバーで次のコマンドを実行します。 <pre>cd /opt/vertica/bin ./admintools -t logrotate -d pv -r weekly -k <number_of_weeks></pre> <p>ここで<number_of_weeks>は、ローテーションされたログを保管する週数です。</p>

HP vPVにアクセスできない

現象	デフォルトのネットワークポート設定を使用してHP vPVにアクセスできません。
----	---

原因	<ul style="list-style-type: none"> • rootではないユーザーまたは非ローカルシステムアカウント権限で動作するようにovTomcatBが設定されているシステムに、HP vPVがインストールされています。 • デフォルトのhttpポート (8081) またはhttpsポート (8444) が他のアプリケーションによって使用中の場合、それらのポートを使用してHP vPVにアクセスすることはできません。
解決策	<ul style="list-style-type: none"> • rootではないユーザーまたは非ローカルシステムアカウント権限で動作するようにovTomcatBが設定されているかどうかを確認します。そのように設定されていた場合、管理者権限またはrootユーザー権限でovTomcatBが動作するように設定を変更します。 • 次のURLを使用してHP vPVにアクセスします。 http://<IPアドレス/システム名>:<ポート番号>/PV <IP アドレス/システム名>がHP vPVサーバーのIPアドレスまたはシステム名で、<ポート番号>がHP vPVサーバーのポート番号の場合。 HP vPVのホームページが表示されない場合、デフォルトポートが使用中かどうかを確認します。 • ポート設定を変更するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行して、HTTPポート、HTTPSポート、およびシャットダウンポートのポート番号を変更します。 <bin_dir>ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -set HTTPPort <ポート番号> <bin_dir>ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -set HTTPSPort <ポート番号> <bin_dir>ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -set ShutdownPort <ポート番号> 2. HP vPVを再起動します。

HTTPSプロトコルを使用してHP vPVサーバーに接続することができない

現象	セキュリティ保護されたHTTPS通信プロトコルを使用してHP vPVからサーバーに接続することができません。
原因	HP vPVがセキュリティ保護されたクライアントから、デフォルトのタイムアウト間隔である1秒以内に接続できない場合、接続がタイムアウトします。
解決策	ご使用のインターネット接続またはインフラストラクチャ設定に応じて、パラメーター SECURE_CLIENT_CONNECT_TIMEOUT を使用して、HP vPVサーバーに接続する際のタイムアウト間隔を調整します。

HP vPVのホームページのコンテンツを表示できない

現象	HP vPVのホームページには見出し以外に何も表示されません。
----	---------------------------------

原因	<p>ブラウザで、JavaScriptが有効になっていないか、またはAdobe® Flash Playerがインストールされていません。最低限必要なバージョンは、Adobe® Flash Playerバージョン10.3です。</p>
解決策	<p>Adobe® Flash Playerをインストールし、Internet Explorer (IE) またはMozilla Firefoxブラウザで、信頼済みサイトのリストにHP vPVを追加することによって、JavaScriptのサポートを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HP vPVのWebサーバーのURLを信頼済みサイトに追加するには、次の手順を実行します。 <p>IEブラウザの場合</p> <ol style="list-style-type: none"> a. [ツール] メニューの[インターネット オプション]をクリックします。[インターネット オプション] ポップアップウィンドウが表示されます。 b. [セキュリティ] タブをクリックします。 c. [信頼済みサイト] アイコンを選択します。 d. [サイト] をクリックします。[信頼済みサイト] ポップアップウィンドウが表示されます。 e. HP vPVのWebサーバーのURLを入力して [追加] をクリックします。入力したURLが信頼済みサイトのリストに表示されます。 f. [閉じる] をクリックします。 g. [OK] をクリックします。 h. ブラウザーを再起動します。 <p>Mozilla Firefoxブラウザの場合</p> <ol style="list-style-type: none"> a. [編集] メニューの[設定] をクリックします。[オプション] ポップアップウィンドウが表示されます。 b. [プライバシー] タブをクリックします。 c. [許可サイト] をクリックします。 d. [サイトのアドレス] の下のボックスに、HP vPVのWebサーバーのURLを入力します。 e. [許可] をクリックします。 f. [閉じる] をクリックします。 g. [OK] をクリックします。 h. ブラウザーを再起動します。
	<ul style="list-style-type: none"> • Adobe® Flash Playerがブラウザにインストールされていない場合、HP vPVのホームページは表示されません。HP vPVのホームページを表示するにはAdobe Flash Playerをインストールする必要があることを伝えるメッセージがブラウザに表示されます。このメッセージをクリックして、Adobe® Flash Playerをダウンロードします。

	<ul style="list-style-type: none"> IEブラウザの場合、HP vPVのホームページを信頼済みサイトに追加しても、JavaScriptが有効になっていなければ、このページを表示することはできません。ブラウザでJavaScriptが有効になっていないこと、およびページを表示するにはJavaScriptを有効にする必要があることを伝えるメッセージがブラウザに表示されます。 <p>JavaScriptのサポートを有効にするには、次の手順を実行します。</p> <p>IEブラウザの場合:</p> <ol style="list-style-type: none"> [ツール]メニューの[インターネット オプション]をクリックします。[インターネット オプション]ポップアップウィンドウが表示されます。 [セキュリティ]タブをクリックします。ブラウザ設定のセキュリティレベルが[高]に設定されているかどうかを確認します。 [信頼済みサイト]アイコンが選択されていることを確認し、[レベルのカスタマイズ]をクリックします。[セキュリティの設定]ポップアップウィンドウが表示されます。 [スクリプト]セクションまでスクロールして、[アクティブ スクリプト]の[有効にする]オプションを選択します。 [OK]をクリックします。 [適用]をクリックします。 <p>Mozilla Firefoxブラウザの場合</p> <ol style="list-style-type: none"> [ツール]メニューの[オプション]をクリックします。 [目次]をクリックします。 [JavaScriptを有効にする]チェックボックスを選択します。 [OK]をクリックします。
--	--

HTTPステータス404 - /PVエラー

現象	HP vPVにアクセスすると、「HTTPステータス404 - /PVエラー」というメッセージが表示されます。
原因	このメッセージは、<インストールディレクトリ>/www/webapps/PVディレクトリが空の場合に表示されます。
解決策	もう一度、<インストールディレクトリ>/newconfig/PVからPerf.warファイルを<インストールディレクトリ>/www/webapps/PVに抽出します。コマンドpv deploywar.を実行します。

HP vPVで使用可能なログファイルは何ですか?

次の表にHP vPVで使用できるログファイルを示します。

コンポーネント	説明	場所
pvcd (PV収集 デーモン)	<p>pvcdデーモンはXPLトレースメカニズムを使用します。デフォルトのpvcdXPL.itc (トレース設定) は、/opt/OV/supportディレクトリにあります。</p> <p>トレースを開始するには、 /opt/OV/support/ovtrccfg -app pvcd -cf /opt/OV/newconfig/conf/xpl/trc/pvcdXPL.itcを実行します。XPLトレースファイルは/tmp/pvcd_*.trcにあります。</p> <p>トレースを停止するには、 /opt/OV/support/ovtrccfg -app pvcd -offを実行します。</p>	<p>トレースが有効になっている場合、/tmp/ directoryにトレースファイルが格納されます (- ls /tmp/pvcd_*.trcを使用)</p>
	<p>System.txtのpvcdおよびpvconfigツールログの重要ステータスおよびエラーメッセージ (存在する場合)。</p>	/var/opt/OV/log/System.txt
コレクター	<p>vCenterおよびOpenStackコレクターステータスログファイル/var/opt/OV/log/status.virtserver</p>	/var/opt/OV/log/status.virtserver
	<p>KVMコレクターステータスログファイル</p>	/var/opt/OV/log/status.kvm
	<p>XENコレクターステータスログファイル</p>	/var/opt/OV/log/tmp/status.xen
データベース トランザク ション	<p>データベーストランザクションを表示するためのVerticaカタログファイル</p>	/var/opt/OV/databases/pv/catalog/pv/v_pv_node0001_catalog/vertica.log
ユーザーイン ターフェイス	<p>ローカルトレースおよびログメッセージはovpmtrace.0.txtおよびovpm.0.logに記録されます</p>	/var/opt/OV/log

第6章: HP vPVコミュニティ

HP vPV関連の情報を次のHP vPVコミュニティから取得できます。

HP vPVのブログ

HP vPVの詳細とユースケースの情報を[HP vPVブログ](#)で入手できます。

HP vPVのビデオ

HP vPVのデモンストレーションビデオおよびチュートリアルを[HP vPVビデオ](#)で表示できます。

HP vPVコミュニティフォーラム

HP vPVコミュニティフォーラムにアクセスして必要なサポートを得たり、質問をしたりすることができます。[vPVフォーラム](#)では、HP vPVに関するあらゆるクエリを扱っています。

ドキュメントに関するフィード バックの送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールで[ドキュメント制作チームまでご連絡](#)ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on Linuxでのスタートアップガイド (Virtualization Performance Viewer 2.20)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docfeedback@hp.com宛にお送りください。

お客様のフィードバックをお待ちしております。